

# Globe の実践を振り返って（幼児センター）

## 4歳児

年度初めに Globe の活動について伝えていたことで、園児たちは、初めての Globe からとても楽しみにしていた。初めて ALT に会った時には緊張している園児もいたが、毎月一緒に活動する中で ALT に慣れて、一緒に遊べることを喜んでいる。遊びに誘ったり、覚えた単語を使って話し掛けたりと、自ら関わろうとする姿も見られ、Globe の時間が園児にとって楽しい時間となっている。毎月英語の絵本を読んでもらうことに期待感をもち、知っている言葉は積極的に発言してみることで、より深く英語に触れることができている。



## 5歳児

昨年度、遊びを通して ALT と楽しく関わる機会があったことで、ALT に対して親しみをもっていった。年長となり授業形式になっても、変わらず楽しんで参加している。ALT はほとんど英語のみで進めていくため、英語の発音をしっかり聞いて、身振り手振りをよく見ることが自然と身に付いた。



月毎にテーマが決まっていて色や動物等、馴染みのある単語も多く、楽しんで取り組んでいる。また、体の一部や動作等、自分の体に触れたり実際に動いたりしながら単語の発音練習をするため、単語と結びつきやすかった。

普段の生活の中にも少しずつ取り入れて、当番活動の質問を習った単語を使って答えたり、日付確認の際には天気を英語で尋ねて答えたりして英語に親しんでいる。

## 成果

- ・はじめは消極的な園児もいたが、次第に Globe の楽しさを感じ、張り切って参加できるようになり、意欲的に英語に触れる姿に繋がった。
- ・聞き慣れない単語が増えてくると発音する声小さくなっていったが、英語が得意な園児が先頭に立って盛り上げていた。聞く力がついてきた園児は、ALT の発音をよく聞いて真似て発音することができるようになってきている。

## 課題

- ・発音の聞き取りが苦手な園児もいる。ゲーム中の単語が理解できていない園児は、みんなを真似て活動していたものの、楽しめていない姿も見られるので、個別に援助しながら、英語に親しめるようにしていく。

・今年度のGlobeアンケートの結果から、「Globeが楽しい」と感じている児童が大変多い。どの学年も体験的な活動などを多く取り入れたGlobeの授業に意欲的な児童が多い。

・(重点 1)カリキュラムの更なる改善と実践、(重点 2)他教科・他領域との横断的な学びでは、日本文化の良さを実感する活動で、高学年で家庭科との横断的な授業を実施。ゲストに日本の魅力を伝えるために、おにぎりと味噌汁の作り方を紹介したり、おもてなしで「おにぎり・味噌汁ショップ」を開店したり、販売する時の言い方なども学びながら楽しんで実践し美食できた。以下は各学年のふり返り。

	成 果	課 題
1 2 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1・2年担任と大淵 T (JTE) と ALT と支援担任 (STE) で指導し、連携がとれていた。</li> <li>・複式カリキュラム (G 年度) を活用し、季節教材では生活科と関連付けて行うことができた。</li> <li>・三校合同や、同学年同士の活動で、交流を深めることができた。</li> <li>・フルーツショップの活動では、本物のフルーツを使い、より英語を話す必要感を高める活動ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児センターから英語に ALT とふれあっている子は、のびのびと交流を楽しむことができたが、これまであまり英語にふれてこなかった子で、Globe は楽しいけど難しいと感じている子がいた。…児童の実態に応じて、年度当初の Globe はみんなで言うことを中心に行うなど配慮が必要。</li> <li>・1人学年があるので、目標に差があるときの交流相手に課題。</li> </ul>
3 4 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任、大淵 T (JTE) , ALT, 支援担任で指導。</li> <li>・自主的に学習に取り組むことができるよう学習内容の改善を担当と Globe 担当者で行った。</li> <li>・複式授業のため、同内容異程度での目標設定や目標達成のための果的な指導支援を行うことができた。</li> <li>・3, 4年生のペアやグループ活動を取り入れることで、上の学年が下の学年に優しく教え一緒に学ぼうという姿が多く見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度も ALT, HRT との打ち合わせの時間を確保し、連携しながらスムーズに授業を進めていきたい。</li> <li>・チャンツを取り入れ、より楽しい授業作りをしていきたい。</li> <li>・ゲストとの交流がたくさん組み込まれている単元計画なので、無理のない計画になるよう毎年見直しを図っていきたい。</li> </ul>
5 6 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任、大淵 T (JTE) 、ALT で指導。</li> <li>・ゲストで何度も来校いただいた JET や高校生との交流授業、他校との合同授業などを多数行い、よりよい発表や交流の体験ができた。</li> <li>・昨年度の課題を踏まえ、書く活動を多く取り入れたことで、読める単語が少しずつ増え、読めて嬉しいと実感できる児童が増えてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALT, HRT との打ち合わせの時間を確保し、連携しながらスムーズに授業を進めていきたい。</li> <li>・使える単語を用いて、英語で伝える意識を持たせたい。</li> <li>・中学校に向けて簡単な英文を「書く」活動や、スピーキングテストの時間を確保したい。</li> </ul>

・その他… ICT の効果的活用について、高学年では毎回 iPad を用いて活動した。ふりかえりやまとめでロイロノートやキャンバなどを活用して、発表や交流ができた。学年でどこまでどのアプリを使うかなど記録に残しながら、次年度も段階的に指導に用いていきたい。

## 東川第二小学校 令和6年度 振り返り

### 【1・2年生】1年生 HRT+ALT, 2年生 HRT+ALT

- ALTと積極的に関わりをもち、学習した言葉やジェスチャーを使って話をして楽しく積極的に学習できた。
- オリジナルハンバーガーを作ってもらったり、お店の人、お客さんの話し方を教わったりと、ALTが積極的に授業準備をしたり、学びを進める場面もあった。
- 2年生になって、授業の流れ（あいさつ・月日・曜日→ALT, Today's goal→HRT, 学習→HRT&ALT、ふりかえり→HRT）の流れが身に付いてきた。
- ▲ JTEが授業に関わらないため、授業指導への不安がある。（幼小のつながり、3年以降へのつながりなど）
- ▲ JETsの先生方を呼んで授業したいが、どの単元で、どんなことを具体的に教えてもらえるのかが不明確な部分がある。相談や打ち合わせの時間の確保も難しい。

### 【3・4年生】3年生 JTE+ALT+STE, 4年生 JTE+ALT+(STE)

- 「英語を知ることが好き」という意見の割合がとても多い。これからも、色々なゲストに来ていただいて、交流する機会を増やしていきたい。
- ▲ 「Globeが自分の生活や普段の生活に役立つと思わない」といった考えをもつ児童に対する働きかけを工夫していく。

### 【5・6年生】5年生 JTE+ALT+STE, 6年生 JTE+ALT

- ゲストとただ関わるだけでなく、東川や日本のことについて伝えたい、知ってもらいたいという気持ちや、世界のことについて教えてもらえることが楽しいと考える児童が多い。
- 交流授業を行ったり、講師の先生を迎えて合同授業を一緒に行ったりすることで、小規模校同士の交流の機会を増やすことができた。
- ▲ 東川町にいる様々な国の人と接することに苦手意識を抱く児童も一定数いるので、ゲストやALTと同じように前向きな気持ちで接することができるように、東川のゲストティーチャーや、様々なゲストと交流する機会を増やすなど工夫していく。

### 【全体を通して】

- 東川町のよさや、行事に参加することに肯定的な意見が多く、ふるさと東川に愛着をもっていると考えられる。幼少からの継続的な取組が子どもたちに生かされている。
- 全体的に少人数の学級であるため、ゲストティーチャーなど外部との関わりや、他校との交流の機会など、学校外の人たちとのコミュニケーションを図る経験を積ませていく。
- ▲ 現在は学年ごとにGlobeを行っているが、今後のことを考えると担任とJTEで授業をするスタイルの検討の余地がある。特に研究大会等での公開授業やLocal分野の授業を行う場合など、担任と連携する打ち合わせや調整が必要になるため、JTEだけでは限界があり、東川小や第一小学校のように、担任に関わってもらうことで、さらによりよいGlobeのかたちにしていきたい。
- ▲ JTEが小規模校三校を担当している関係でALTやその他先生方との打ち合わせや連絡の時間の確保、交流授業の日程調節や、授業教室確保の調整が難しい。
- ▲ 教材の不足（来年度にまとめて小さいカードを作成していく。）



	成 果	課 題
1 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1・2年担任と ALT(ルーシー先生)で指導。年度途中より ALT が変わったこともあり、その際より JTE も一緒に指導。</li> <li>・第一小の複式カリキュラムを活用。問題なし。</li> <li>・SWITCH ON は、24 年度の続きから1・2年生一緒に毎時間視聴した。</li> <li>・日本語学校に三校合同で行き、交流を深めることができた。</li> <li>・生活科と関連した学習が多いので別葉を効果的に活用した方がよい。時数も確保しやすくなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・打ち合わせは、単元の始めにまとめて行うことで、負担軽減していたが、時間の確保。</li> </ul>
3 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JTE、ALT(ルーシー先生)、担任で指導。</li> <li>・第一小の複式カリキュラムを活用。問題なし。</li> <li>・SWITCH ON の活用により、発音や単語表現、などを覚え、言うことができるようになっている。</li> <li>・英語劇の単元を学芸会に合わせて実施。ルーシー先生にも、劇に出てもらった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども同士の交流機会を多くさせたい。</li> </ul>
4 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JTE、ALT(ルーシー先生)で指導。</li> <li>・町内の JETs や Padlet を用いた動画交流(東小)を行い、発表の機会を確保できた。</li> <li>・ALT との会話の際には、語順はもとより、知っている単語を使って言いたいことを伝えようとすることができた。</li> <li>・社会や総合などの内容と Globe で連携を図り、教科等横断的に授業内容を工夫することができた。</li> <li>・JTE が三校回っているため、時間割を調整し、計画的に時数をこなすことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALT との打ち合わせの時間の確保</li> <li>・特別支援児童への個別指導</li> </ul>
5 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JTE、ALT(クレア先生)で指導。</li> <li>・対面での交流授業、zoom を使用したオンライン交流会による発表機会の確保。近隣小規模校同士で関わる機会を増やすことができた。</li> <li>・年度初めに東小と交流や、オーストラリアとのオンライン交流会、ゲストティーチャーによる授業などで、様々な人と関わる事ができた。</li> <li>・JTE が三校回っているため、時間割を調整し、計画的に時数をこなすことができた。</li> <li>・ALT の空き時間を利用して、特別支援児童の個別学習を進めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALT との打ち合わせの時間の確保</li> <li>・授業に ALT と JTE のみであり、落ち着いて学習に取り組める環境づくりが難しかった。</li> </ul>
6 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JTE、ALT(ルーシー先生)で指導。</li> <li>・第一小の複式カリキュラムを活用。問題なし。</li> <li>・SWITCH ON の活用により、発音や単語表現、などを覚え、言うことができるようになっている。</li> <li>・英語劇の単元を学芸会に合わせて実施。ルーシー先生にも、劇に出てもらった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども同士の交流機会を多くさせたい。</li> </ul>

# 令和6年度 東川小学校Globe振り返り

○成果 ●課題

## 1 取組の重点①カリキュラムのさらなる改善と実践、地域教育資源の活用

- 「Globeを楽しい」と感じている児童が大変多い(12月アンケート(3年生以上実施)98%が「楽しい」と回答)。
- 週1回のGlobe打合せ会議を通して、各学年で協力しながら授業研究を深めることができた。また、Globeは、児童の非認知能力や内的成長、友達との関わり等において、学級経営と密接に関わる。学級担任を中心に、JETとALT、特別支援担当等の役割を明確にし、授業の実践を行うことができた。
- コロナ前のような体験的な活動を含むカリキュラム実施や外部講師の招へい、学校外の方々と交流活動を行うことができた。
- これまでの実践に基づく成果と課題を踏まえ、カリキュラムを改善し、新たな視点を取り入れながらカリキュラムを編成する必要がある。
- 今度新しく着任する教職員が、Globeについて理解し実践することができる持続可能な環境を構築していく必要がある。



4年生 JETと交流



2年生 日本語学校と交流



6年生 JETとクッキング

## 2 取組の重点②他教科・他領域との横断的な学び

- 各学年において教科横断的な視点で単元を構成し、学習活動を行った。特に今年度新たに取り組んだ、5年生の農育では、社会科、家庭科、総合の学習で学んだことを生かす学習となった。横断的な学びとなった。
- 学習発表会では、複数の学年で、グローブの学習内容を発表した。他教科の学びの成果と共に、グローブでの学習の成果を、他学年の児童や保護者に伝えることができた。
- ●アンケートの結果から、世界への関心について肯定的な回答をする児童の割合が増加した。(「他国の人と友達になったり、他国のことについてもっと知りたいと思いませんか」【R6:97.7% R5:92.6%】「あなたは、世界で起きている問題について知っていることはありますか」【R6:97% R5:88.3%】教科横断的な視点によるカリキュラムマネジメントを通して、他教科等においても世界および日本への視点を実感する活動を一層充実していきたい。



5年生 東川米おにぎりマルシェ



学習発表会でGlobeの学習成果を発表



3年生 タイのおどり



実践発表会(6年生 Let's cook world meals)

## 3 取組の重点③学校間交流・異校種間交流の充実

- 幼児センターと小学校、小規模校と大規模校との合同授業(ICT活用含む)、小学校と高校、日本語学校など、異校種及び関係機関等との交流を行うことができた。様々な方とのつながりを通して、新たな発見をしたり、自分の学びを広げたりする様子が見られた。
- 授業づくりに向けた打合せなどを含めて、準備や調整に時間を要する。各校とはサイボウズで行うことができるが、つながっていない高校とはメールアプリなどを活用し、取組のゴール像や必要な情報の共有を行い、学習活動の充実を図りたい。



実践発表会(1年生 フルーツショップでおかいもの)

### 【1年生】

6月に小学校のALTジェニーに来てもらい日常会話のグローブトライアル。成長を見せられた。みな楽しそうでした。10月「東川のプロフェッショナル（職業人）を紹介しよう」の活動を行った。11人の異なる職業を持つ人に向けて、事前に質問を考えて送付。当日インタビューをしました。まとめ活動は、日本語部分と英語部分に分けて発表。英語部分はポスターも作成。12月にはグローブトライアルでSEA、CIR、ALTと一対一の会話（道案内と日常会話）を行った。自信になったと思います。1年を通して、たくさん英語の歌を歌いました。発音の習得に有効です。今年も昼休みは図書館で英語の多読活動を行いまいした。「いつでもラビンダーと待っている」という状態が活動の維持につながっていると思います。小学校の単語に関しては、文字を見ても発音できないので授業で復習しつつ、夏期に課題でしました。

### 【2年生】

7月にフィンランドからの留学生を交えて貿易ゲームをしました。ゲームを通して、英語を使ったコミュニケーションを楽しみつつ、世界に広がる格差について考え、国際協力の在り方や重要性について考えることができました。また、Unit 5 Universal Designにかかわって、授業内で取り上げられているテーマの発展として「東川の福祉」について学び、誰もが安心して暮らせる社会を目指して、自分や自分を取り巻く環境について振り返ったり、これからのあり方について考えたりすることができました。ゲストスピーカーとして役場保健福祉課の方々からの出前授業を複数実施したり、旭川福祉専門学校への校外学習を行ったりして、系統的に授業を実践することができました。課題として、過年度既習事項について定着していない生徒が多いことが挙げられます。また、家庭学習習慣が定着していない生徒も多くいます。生徒たちが意欲的主体的に学ぶことができるようさらに指導徹底していく必要があります。

### 【3年生】○：成果 ▲：課題

○：年度始めのオリエンテーションで授業の方針や評価基準を生徒と共有できた。

○：Unit1「Sports for Everyone」では、パラリンピックについて調べたことや、実際に体育館で体験した感想を英語で書く活動を行った。実体験から英語で表現する活動につなげることができた。

○：Unit4「Be Prepared and Work Together」では、学校行事で行った「防災学校」と関連付け、体育館を避難所と見立て、避難してきた外国人の英語対応を行った。JETsのメンバー8名に協力をいただき、即興的に英語で話す活動を行った。振り返りシートの、「自分から英語を話そうと意識できた。」や「ALTやSEAとの会話が楽しかった。」という記載

から、昨年度英語を話すことに抵抗感があったという状態から、少し進歩させることができたと感じる。

○：各 Unit の内容に応じて、ポスター作成やスピーキングテストを行った。活動の段取りをある程度固定することで、年度の後半からは生徒も慣れた様子で活動に取り組むことができていたと感じる。

▲活動内容によっては、教員側の準備時間がかなり必要なものもあった。私の校務の量的になんとか授業を成立させることができたが、どんな仕事量の先生でも「準備時間がかかりすぎず、生徒にとって深い学びを促す」ような授業づくりが必要だと感じた。

▲評価基準の見直し…特に「主体的に学習に取り組む態度」の部分が課題だと感じる。「生徒の活動の様子」のように曖昧な要素だけではなく、「振り返りシートの記載」のように、目で見て評価できるものも増やす必要がある。

▲学んだ単語や表現が「日常的に役立つ」・「テスト（特に学力テスト）の点数につながる」ような指導を今後も追究する必要がある。